

〈隷書〉

金餅隔林明

井之上 南岳先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする)

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

金餅隔林明

清原 大龍先生書

□ 金餅は林を隔てて明らかなり (宗・蘇舜欽)

次号予告「筆硯更償閑裏債 茗壺聊結靜中緣」

〈行書〉

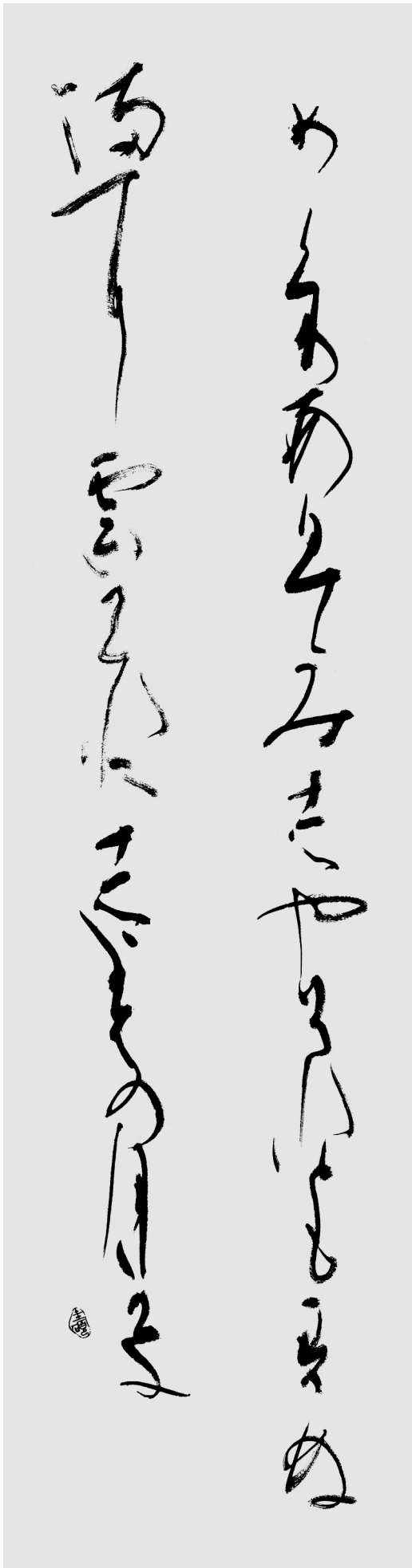


吉田成美先生書

▽金色の餅のような月は林の向こうにきらきらと明るく光っている。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□めくりあひて^ひみ志^しやそれとも王^わ可^かぬ満^ま耳^{みみ}雲^う可^かくれ^に二志^しよ者^はの月^か可^かな
めくりあひて見しやそれともわかぬまに雲かくれにし夜半の月かな
△百人一首五十七

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

山本飛雲先生臨

超然遠尋好山海
蜀纂神仙事

▽李思訓碑

超然遠尋好山海蜀纂神仙事

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書

露けや黄金凝る佛たち

水尾の句 露けしや 黄金に凝る 佛たち

□落合水尾の句 露けしや 黄金に凝る 佛たち

《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） —11月29日締切—

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□ 岸原清行の句 初冬の 織月懸かる 行者杉

線の曲直、墨の潤濁、文字の大小などを交えながら、一貫した気脈で作品をまとめましょう。

山 本 飛 雲 先 生 書

条幅随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 縦のみ） —11月29日締切—

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□（白露寒）

白い玉の露は冷たい、秋の景。

（王昌齡）

文字の大小・潤渴の変化はもちろん、一文字の中でも疎密感があると楽しい作品となります。



小 畠 秋 聲 先 生 書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 遠鴉は夕照を追う (宋・李昂英)
夕べの鴉は遠く落日を追って飛ぶ。



次号予告「遺音猶在耳」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 遠鴉は夕照を追う (宋・李昂英)
夕べの鴉は遠く落日を追って飛ぶ。



次号予告「遺音猶在耳」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)



□ 隙^{げき}

駒^{くま}

(「莊子」知北遊)

人生の儚さという。

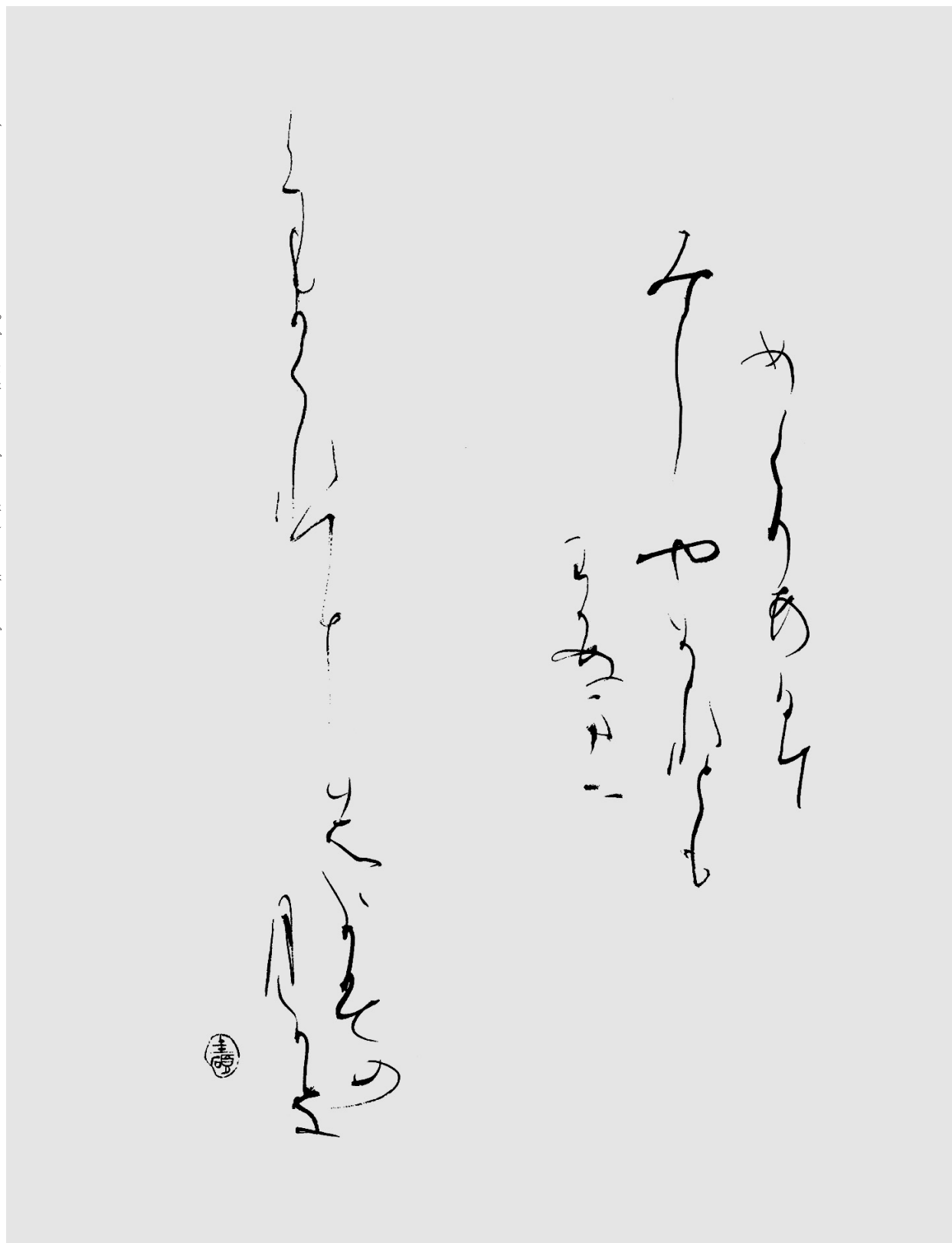
半紙随意参考手本 —11月29日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

めくりあひて 見しやそれとも わかぬまに 雲かくれにし 夜半の月かな

□ めくりあひて みしやそれとも 王^{わか}可^かぬ^ぬ万^ま二^に くも^{くも}可^かく^くれ^れ耳^に志^し よ^よ盤^はの^の月^か可^かな



舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

原子公平の句

棕鳥の

逃散雲と

子が光る



※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)

渡 邊 大 嶽 先 生 書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽

運腕を大きく、点画の流れや抑揚の変化に留意して書きましょう。



「慕神仙事」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

〈実用書〉

芸術 宝物 所蔵品 太宰府 神品至宝 西域の織物 日本初上陸
歴代皇帝の収集品 精緻な透かし彫の器 故宮博物院の逸品が九博にやって来た

姓 号	故宮博物院の逸品が九博にやって来た		歴代皇帝の収集品		神品至宝		芸術	
							宝物	
							所蔵品	
							太宰府	
		精緻な透かし彫の器		西域の織物		日本初上陸		

大坪桂子先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

早くもお節料理や年賀状
関連の文字が街中に溢れて
いす年の瀬が近いですね
今年中に集まる約束三連休
で計画しよう
夕美

早くもお節料理や年賀状関連の文字が街中に溢れています 年の瀬が近いのですね
今年中に集まる約束 三連休で計画しましょう (夕美)

兵頭白慧先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

書譜

〈暮らしに役立つ書〉

枯れ葉舞う季節となりました。
先般は、旅行中のあわただしい訪問で失礼
しました。滞在日があと一日あれば、ゆっくり
お話しが出来たのにと残念に思っています。
すっかりご馳走になろう、先月のあなただけ
お宅のエネルギー係数を大幅にアップさせたので
はと、案外といえます。
今度はぜひ私に料理の腕をさやわらせて
ください。とり急ぎおれまで。

野のある便箋に書いてみよう。

〈26 cm × 18 cm〉

紙質は自由。

・高校で三年生の担任をしていますと、そろそろ願書の季節。しかしながら筆順違いや日頃からパソコンを使用していることで、何とも記入する文字が頼りない。日常生活の中で、こうした硬筆にふれるだけでも、何かが変わると思われます。大いに手紙文に対峙してみてください。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

小 畠 秋 聲 先 生 書

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

日光の寺

小学 4 年

文化の日

小学 3 年

ひつじ

小学 2 年

うめ

ようねん・小学 1 年

美しい自然

中学 2・3 年

富士五湖

中学 1 年

古都の町

小学 6 年

歴史小説

小学 5 年

秋永春霞先生書

△条幅 1/4 四尺画仙紙半折 1/4 : 68 cm × 17・5 cm ▽

□ 筆をかるくにぎって、腕全体でのびやかに書きましょう。濁点もゆつくり、ていねいに。



小学二年

次号予告「トロイカ」

□「め」の二画目は一画目よりも高い位置から書き始めましょう。「ハライ」はていねいに。



ようねん・小学一年

次号予告「わた」

坂 元 紫 香 先 生 書

□ 全体の中心に注意し、「日」は少し小さめに、「光」は「ハライ」・「ハネ」を伸びやかに書こう。



小学四年

次号予告「実る」

□「文」は左右の「ハライ」をのびやかに、「化」は字形をや、台形に明るく力強く書こう。



小学三年

次号予告「水玉」

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「広がる夢」

歴史

□「歴」は「林」と「止」で上下に等分するくらいに。「史」は左右の払いを伸び伸びと。

小学 六年

次号予告「希望の春」

の古都町

□「古」は二画目の横画を長く。「都」は扁と旁の、バランスを考えて書きましょう。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「世界紀行」(行書)

富士五湖

□画数の多い字と少ない字のバランスを意識し、文字の中心や線の強弱に注意して書こう。

中学二・三年

次号予告「創造する喜び」(行書)

美しい自然

□漢字は点画の省略や流れに気をつけ、平仮名はや、小さめにゆったりと伸びやかに書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

[illegible]

坂元紫香先生書

ようねん・小学一年

段 級				
氏 名				
学 校	学 校	学 校	学 校	学 校
に	に	に	に	に
も	も	も	も	も
こ	こ	こ	こ	こ
と	と	と	と	と
い	い	い	い	い

小学四年

テレビの画面には会場全体がうつし出され、選手たち
はコート全体に広がって、
体を動かしています。

段 級
氏 名

⑥上下のよこかくにつける
⑦一本とも上下のよこかくにつける
⑧ひきだす
⑨選

坂元紫香先生書

小学三年

大豆(だいず)	①問をあける	②はねる	③左から右へひく
一 一 一 豆			
ト 坦 坦 場	段 級	氏 名	
日 近 く お い て 作 り ま す 。			
え あ た た か い 場 所 に 一			
に ナ ッ ト ウ キ ン を く わ			
な っ と う は お し た 大 豆			

小学六年

段 級	
氏 名	

「田んぼが、詩に書かれた田んぼの
ように、かがやいて見えましたよ。」
と、昔の教え子たちが言う。苦しい
農作業の中に、楽しさを見つける。
工夫することに、喜びを見つける。

㊦左の点を先に書く㊦つき出る
 ㊦まっすぐ下におろす㊦かくで書く
 ㊦はねる
 ㊦はねる
 ㊦はねる

小学五年

	残雪は、あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようでありました。がバシッ。快い羽音一番、一直線に空へ飛び上がりました。
段 級	
氏 名	

小 畠 秋 聲 先 生 書

一 般 (A)

段 級	無地の食器は料理を引き立てる。自らの個性を封じ、背景に徹すること
氏 名	で、食材の色が一つ前に出るのだろう。白い皿は何かを盛ることで生かされ、逆に何ものせなければ物悲しい。

、 宀 官 宴 宴 宴 廿 廿 廿 廿 廿 華 古 亭 亭 亭 豪

(えん)

中学

[illegible]

小 畠 秋 聲 先 生 書